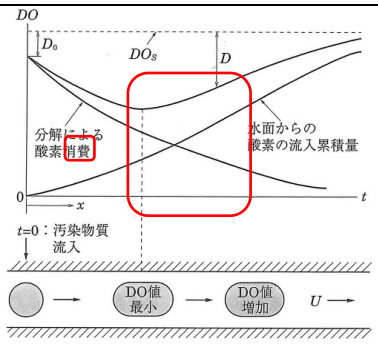
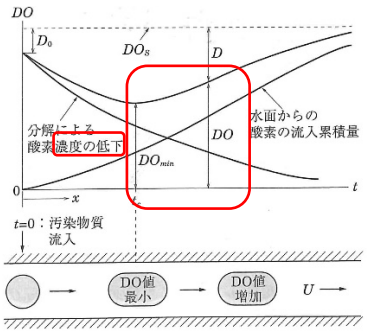
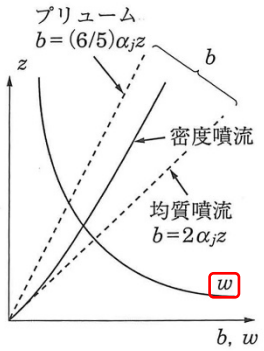
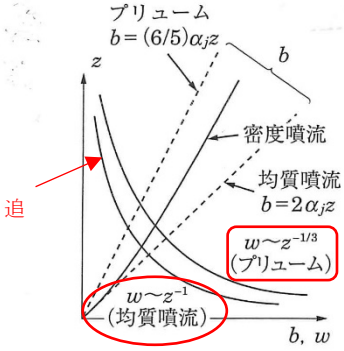
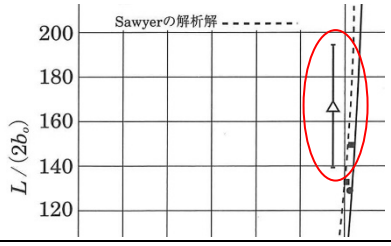
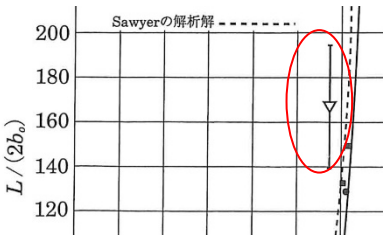
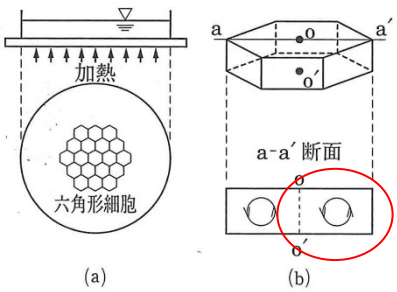
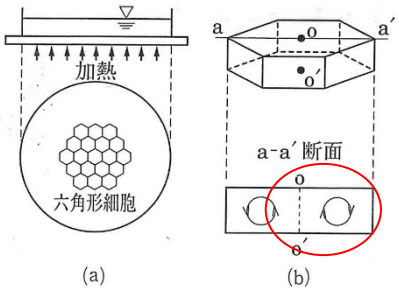
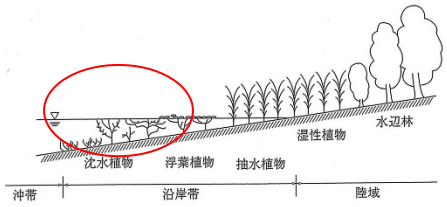
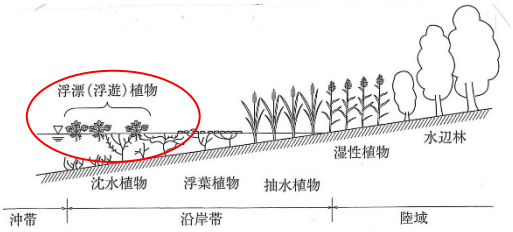
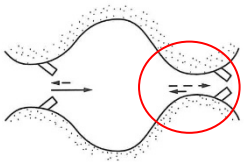
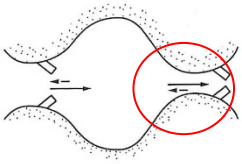
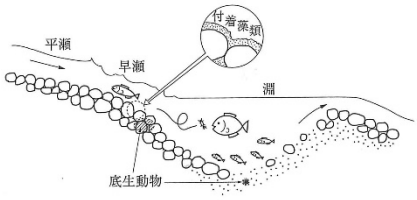
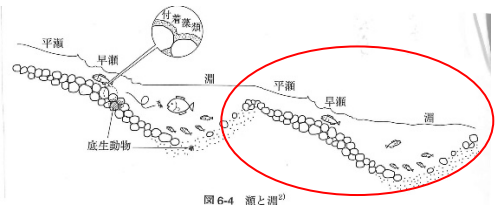
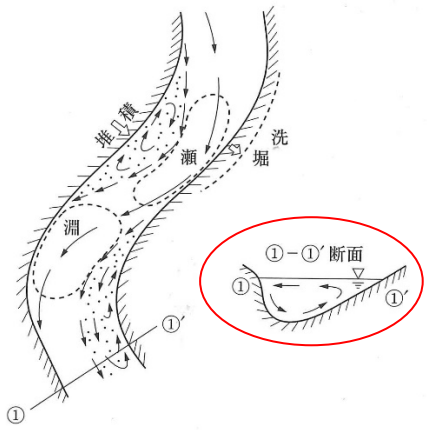
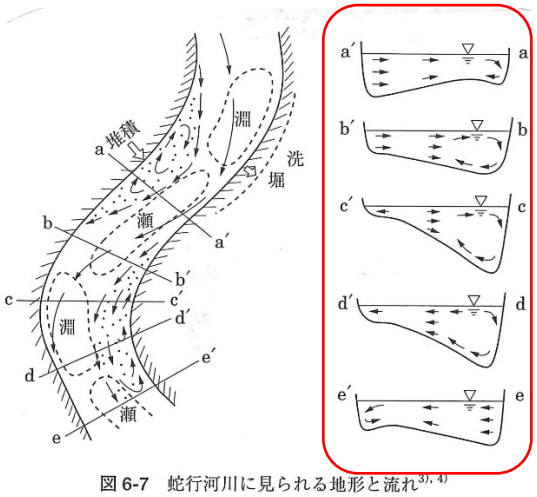
【正誤表】

書　　名：水圏の環境
版　　数：1版7刷

ページ	箇所	誤	正
18	1～2行目	2009年12月現在	2015年9月現在
	表1 基準値－カドミウム	0.01ppm以下	0.003ppm以下
	下1行目	位置づけられ，全亜鉛が基準化されている。	位置づけられ，2015年4月現在，全亜鉛，ノニルフェノール，直鎖アルキルベンゼンスルホン酸およびその塩が基準化されている。
21	3行目	利用するのは可視化光で	利用するのは0.38～0.77μmの可視化光中の青紫色0.45μmと赤色0.66μm近傍の光で
25	式（1-13）	$\mathrm{pH} = \log = \frac{1}{[\mathrm{H}^+]} = -\log[\mathrm{H}^+]$	$\mathrm{pH} = \log \frac{1}{[\mathrm{H}^+]} = -\log[\mathrm{H}^+]$
26	4行目	$[\mathrm{H}^+][\mathrm{CO}^-] = 1.0 \times 10^{-14}$	$[\mathrm{H}^+][\mathrm{OH}^-] = 1.0 \times 10^{-14}$
49	図1-18	 図 1-18　河川における溶存酸素濃度の変化	 図 1-18　河川における溶存酸素濃度の変化
65	1～2行目	また，ランダムな運動では$\overline{Y^2}$はtに比例するから，$\overline{Y^2} = 2Dt$となる。よって	これより，$\overline{Y^2} = 2Dt$であるから，
81	下5行目	$x = vt$	$x = Ut$
118	13行目	角振動数N，周期$2\pi/N$	角振動数$N(= 2\pi/T)$，周期$2\pi/N\ (= T)$

ページ	箇所	誤	正
158	図3-28	 図 3-28　均質噴流・密度噴流，および プリュームの流速wと拡がり幅b の流下方向変化	 図 3-28　均質噴流・密度噴流，および プリュームの流速wと拡がり幅b の流下方向変化
164	図1 図内記号		
170	図3－38	(追加)	［注］点Aでは$dh_*/dq_*=\infty$となる。これはわずかな希釈水量の不足で跳水が引き起こされることを意味している。よって，実験・現地で$F_{df}=1$の流れを得ることは困難であると考えられる。また，同地点付近の解の性質よりF_d~1の流れでは界面に大きな振幅・波長をもつ界面波が発生する可能性があることが示唆される。一方，B点では$dh_*/dq_*=0$となるが，これはわずかな下流水深の撹乱によって希釈率が大きく変化することを意味している。物理現象として，B点近傍の流れでは内部跳水始点の上下流への振動現象が生ずる可能性があることが示唆される。
206	式(3-166)	$F_{drmax}=\left(\frac{H}{h_r}\right)^{5/2}\left\{1+\sqrt{h_r-1}\right\}^{-2}$	$F_{drmax}=\left(\frac{H}{h_r}\right)^{5/2}\left(1+\sqrt{H/h_r-1}\right)^{-2}$
212	図3-70	 図 3-70　ベナールの実験	 図 3-70　ベナールの実験
248	1行目	SS (Suspended Solid)	SS (Suspended Solids)

ページ	箇所	誤	正
253	3～4行目	二次生産者，さらにそれ以降の生態連鎖過程に介在する生物は高次生産者とよばれる。	二次生産者(もしくは一次消費者)，さらにそれ以降の生態連鎖過程に介在する生物は高次生産者(もしくは高次消費者)とよばれる（図1-13参照)。
254	5行目	アナベノプシス(アナベナ)	アナベナ
	8～9行目	アナベナなどのように水面が赤褐色ないし褐色に着色されるような場合は，水の華と区別して淡水赤潮と呼ばれる。	ペリジニウムなどの渦鞭毛藻類によって水面が赤褐色ないし褐色に着色されるような水の華は淡水赤潮と呼ばれる。
258	下7～6行目	見かけの沈降速度$\omega_0 = 10\,\mathrm{m/年}$	見かけの沈降速度$\omega_0 = 10$〔m/年〕
266	図4-20	 図 4-20　水辺の植生群落	 図 4-20　水辺の植生群落
267	3行目	**浮漂植物**	**浮漂（浮遊）植物**
286	最下部	(追加)	$u_c = \langle u \rangle - u_a$ $u_s = \bar{u} - u_a$
287	式(5-9)	$m = Q_f C_a + \cdots$	$m = A u_a C_a + \cdots$
305	図5-19(c)	 (c)	 (c)
330	図6-4	 図 6-4　瀬と淵	 図 6-4　瀬と淵[2]

ページ	箇所	誤	正
331	図6-7	 図 6-7　蛇行河川に見られる地形と流れ	 図 6-7　蛇行河川に見られる地形と流れ[3), 4)]
334	3行目	酸素が21%，二酸化炭素が	酸素が21%，窒素が78%，二酸化炭素が
353	下9～8行目	**付着した微生物**による分解作用であり，3つ目は**植生自身による吸収**である。	**付着した微生物**による有機物の分解作用であり，3つ目は**植生自身による栄養塩の吸収**である。
354	3～4行目	汚濁物質が再び水系に還元してしまう。また汚濁の程度によっては，自然浄化作用に固執せずに	汚濁物質が再び水系に還元され，水質悪化の原因となる。また汚濁の程度によっては，植生を利用するなどの自然浄化作用による手法では対策が不十分であるので，
378	下4行目	$t_c = 0.65$日	$t_c = 0.69$日
	下1行目	$Q_s \leqq 12.4\ \mathrm{m^3/s}$	$Q_s \leqq 12.9\ \mathrm{m^3/s}$

2023年6月現在